平成28年度

教育研究員研究報告書

学校保健

東京都教育委員会

目 次

Ι	研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
П	研究の視点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
Ш	研究仮説	2
IV	研究方法 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	3
V	研究内容 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	4
1	研究構想図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2	基礎研究 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5
3	実践研究 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5
(1)	課題解決的な保健学習の学習過程「授業スタイル」の作成 ・	5
(2)	検証授業	7
4	調査研究 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	18
VI	研究のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23

研究主題

知識を活用し、健康課題を解決する力の育成 ~主体的・協働的な学習活動を通して~

I 研究主題設定の理由

近年、社会環境や生活環境は急激に変化し、子供たちの健康や生活にも大きな影響を与えている。夜更かし、情報機器の使用、朝食欠食、運動不足、いじめ、不登校、暴力、アレルギー疾患、喫煙、飲酒、薬物乱用など、子供たちの健康課題が多様化・複雑化している。

こうした課題を乗り越えるために、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」 (文部科学省 平成28年8月26日)では、「必要な情報を自ら収集し、意思決定や行動選択 を行うことができる力を子供たち一人一人に育むことが強く求められている」と示されてい る。また、全ての教科等や、諸課題に関する資質・能力に共通する要素として挙げている三 つの柱のうちの一つに「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」 とあり、保健教育については、「健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十 分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要」と指摘されている。

「平成22年度保健学習推進委員会報告書-第2回全国調査の結果-」(公益財団法人日本学校保健会 平成24年2月23日)によると、児童・生徒は保健学習の重要性や必要性を高く評価していることが分かっている。しかし、小学校5年生を対象とする調査では、小学校3・4年生の保健単元で学習する知識について「わからない」と回答した児童の割合が、項目によっては20%に達し、確実に知識が定着しているとは言えない実態を示している。また、「授業後、学習したことを日常生活で実践しているか」という設問では、肯定的な回答の割合が50%を下回る項目もあり、実践には十分結び付いていないことが読み取れる。

小学校学習指導要領解説体育編(平成 20 年 8 月)では、内容の取扱において、「保健の指導にあたっては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うこと」とされている。これは知識を習得する学習活動を重視するとともに、習得した知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、思考力・判断力等を育成していくことを示したものである。指導にあたっては、身近な日常生活の体験や事例などを用いた話合い、ブレインストーミング、実習、実験などを取り入れ、多様な指導方法の工夫を行うよう示されている。

これらのことを踏まえ、保健学習では、確実な知識の習得及び習得した知識を活用する学習活動の充実が必須であり、社会の変化に伴った未知の健康課題に対応できる思考力・判断力・表現力等を育むためには、他者との学び合いを通して、考えを広げたり深めたりできるような主体的・協働的な学習活動の工夫が必要であると考えた。

以上のことから、本研究では「知識を活用し、健康課題を解決する力の育成」を研究主題とし、「主体的・協働的な学習活動を通して」を副主題に設定した。

Ⅱ 研究の視点

1 自らの考えを広げ深めるための主体的・協働的な学習活動の工夫

小学校学習指導要領解説体育編(平成20年8月)では、「児童が身近な生活における健康 に関する知識を身に付けることや活動を通じて自主的に健康な生活を実践することのできる 資質や能力を育成することが大切である」と示されている。

このことから、身近な生活の中から題材を選び、主体的・協働的な学習活動を工夫することで、児童に健康課題を解決するための思考力・判断力・表現力が身に付くと考えた。

また、児童が自らの考えを広げ深めることができるように、体験的な活動、話合い、ブレインストーミング、実験などの学習活動を吟味し、多様な考え方を全体で共有できる場を設定した。

2 課題解決的な保健学習の学習過程「授業スタイル」の作成・活用

東京都教育委員会は、公立小・中学校の児童・生徒の思考力・判断力・表現力等を一層高め、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるよう、「東京方式1単位時間の授業スタイル~思考力・判断力・表現力等を一層育み、主体的に学習に取り組む態度を育てるために~」(東京都教育委員会 平成28年3月)というリーフレットに、教科ごとに授業スタイル例と指導展開例を示している。

東京方式1単位時間の授業スタイルの作成のポイントは、(1)児童・生徒の資質・能力、 興味・関心等に応じて、更に学習を広げたり、深めたり、進めたりする、(2)基礎的な知識や 技能を活用して主体的に学習に取り組みながら課題を解決する態度を育成する、(3)問題解決 的な学習を踏まえた授業の流れを基本として、教科の特性に応じて思考力・判断力・表現力 等を育成するとされている。

これらのポイントを踏まえて、保健学習の学習過程「授業スタイル」を作成し活用することにより、児童・生徒の保健に関する実践力をより一層育むことができると考えた。

Ⅲ 研究仮説

主体的・協働的な学習活動を工夫し、授業スタイルを活用した授業を行うことにより、児 童の思考力・判断力・表現力が高まり、健康課題を解決する力を育成することができる。

本研究における言葉の定義

- ○保健教育…保健学習と保健指導
- ○保健学習…体育科保健領域(小学校)、保健体育科保健分野(中学校)、保健体育科科目保健(高等学校)及び関連教科における保健に関する学習
- ○保健指導…特別活動(学級活動、児童・生徒会活動、学校行事)における保健指導、保 健室での指導、日常生活での指導
- ○授業スタイル…課題解決的な学習を踏まえた学習活動と指導上の留意点を明示した1単 位時間の学習過程

Ⅳ 研究方法

1 基礎研究

「平成22年度保健学習推進委員会報告書-第2回全国調査の結果-」(公益財団法人日本学校保健会 平成24年2月23日)を参考に、保健学習に関する児童・生徒の実態等を把握した。

「『生きる力』を育む小学校保健教育の手引き」(文部科学省 平成25年3月)等を参考に主体的・協働的な学習活動の指導方法を検討した。

「小学校学習指導要領解説体育編」、「東京方式1単位時間の授業スタイル」、「教育課程部会体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループにおける審議のまとめ」(文部科学省 平成28年8月26日)等を参考に、保健学習における授業スタイルを検討した。

2 実践研究

小学校体育科保健領域に特化した「授業スタイル」を作成・活用し、体験的な活動や、話 し合いなどの主体的・協働的な学習活動を工夫した検証授業を実施した。

3 調査研究

所属校の児童を対象として、検証授業実施後に、質問紙を用いた調査を行い、児童の意識の実態や変容を分析した。

【参考・引用文献】
□「小学校学習指導要領解説総則編」
□「小学校学習指導要領解説体育編」
□「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答
申)」(中央教育審議会 平成 20 年 1 月)
□「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」(平成28年8月26日)
□「『生きる力』を育む小学校保健教育の手引き」(文部科学省 平成 25 年 3 月)
□「平成 22 年度保健学習推進委員会報告書─第2回全国調査の結果─」(公益財団法人日本学
校保健会 平成 24 年 2 月 23 日)
□「教育課程企画特別部会 論点整理」(文部科学省 平成 27 年 2 月 26 日)
□「アクティブプラン to 2020 総合的な子供の基礎体力向上方策 (第3次推進計画)」(東京都
教育委員会 平成 28 年 1 月)
□「東京方式 1単位時間の授業スタイル~思考力・判断力・表現力等を一層育み、主体的に
学習に取り組む態度を育てるために~」(東京都教育委員会 平成 28 年 3 月)
□「教育課程部会体育・保健教育・健康・安全ワーキンググループにおける審議のまとめ」(文
部科学省 平成 28 年 8 月 26 日)
□「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 (小学校体育)」(国立教育政策
研究所 教育課程研究センター 平成 23 年 11 月)

V 研究内容

1 研究構想図

平成 28 年度 教育研究員共通研究テーマ

「思考力・判断力・表現力を高めるための授業実践」

現状と課題

保健学習に関する実態調査によると、児童・生徒は保健学習の重要性や必要性は高く評価し ているが、学習内容によっては確実に知識が定着しているとは言えず、授業後の実践力に結び ついていない (平成22年度 保健学習推進委員会報告書)。

その現状を踏まえ、保健学習では、習得した基礎的・基本的な知識を活用して、自分の健康 課題を発見し解決する力を育む必要がある。

学校保健部主題

知識を活用し、健康課題を解決する力の育成 ~主体的・協働的な学習活動を通して~

研究の視点

- 自らの考えを広げ深めるための主体的・協働的な学習活動の工夫
- 2 課題解決的な保健学習の学習過程「授業スタイル」の作成・活用

仮説

主体的・協働的な学習活動を工夫し、授業スタイルを活用した授業を行うことにより、児童 の思考力・判断力・表現力が高まり、健康課題を解決する力を育成することができる。

研究方法

基礎研究

先行研究・文献等から、

- (1) 保健教育に関する児童・ 生徒の実態や意識の把握
- (2) 主体的・協働的な学習活 動の指導方法を検討

実践研究

- (1) 保健学習における授業ス タイルの作成
- (2) 主体的・協働的な学習活 動の工夫
- (3) 授業スタイルを活用した 検証授業の実施

調査研究

所属校の児童を対象として、 検証授業実施後に、質問紙を用 いた調査を行い、児童の意識の 実態や変容を分析

評価・検証方法

査を行い、実践力につながる思考力・判断力・│康課題を発見し解決する力(思考力・判断力・ 表現力が身に付いたかを分析・考察する。

検証授業実施後に、児童に質問紙を用いた調 保健学習時に使用するワークシートから、健 表現力)が身に付いたかを分析・考察する。

2 基礎研究

「平成22年度保健学習推進委員会報告書-第2回全校調査の結果-」(公益財団法人日本学校保健会平成24年2月23日)では、小学校5年生を対象とした調査で、設問「保健の学習は大切だ」に対し、「そう思う、どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は93.8%、設問「保健の学習は、健康な生活を送るために重要だ」に対し、「そう思う、どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は90.9%だった。保健学習の重要性や必要性は認識していると考えられる。しかし、設問「保健の学習は楽しい」に対し、「そう思う、どちらかといえばそう思う」と回答した児童は59.6%であり、一定の割合の児童は保健学習の授業に十分満足していない結果であった。

また、設問「保健の学習をすれば、私の今の生活に役立つ」に対し、「そう思う、どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は87.7%、設問「保健の学習をすれば、健康な生活ができるようになる」に対し、「そう思う、どちらかと言えばそう思う」と回答した児童は88.6%であり、生活場面における有益性は認識している。しかし、設問「保健で学習したことを、自分の生活に生かしていますか」という日常生活における実践状況を問う設問では、肯定的な回答が小学校5年生では70%を超える項目も見られたものの、中学校1年生以降では50%以下であったことから、自分で判断し、実践する力には十分結び付いていない状況がうかがえる。

小学校 5 年生を対象とした「小学校 3 ・ 4 年生の内容の知識テスト」では、平均正答率は 77.5%であるが、生活経験だけでは補えない知識である「身の回りの環境」については、正 答率が 70%以下であった。また、小学校 5 年生・中学校 1 年生の児童・生徒を対象に、過去 2 年間に履修した保健単元に関する設問「保健学習で考えたり、工夫したりできましたか」に対して「考えたり工夫したりできた、どちらかといえば考えたり工夫したりできた」と回答した児童・生徒は、男子 $30.4 \sim 46.8\%$ 、女子 $38.4 \sim 57.4\%$ であった。

これらのことから、知識が確実に定着しているとは言えず、思考力を育む学習活動が不十分であると推察される。

以上のことから、思考力・判断力・表現力を一層育むための学習活動を工夫することが課題であると考え、先行研究・文献等から、様々な学習活動の在り方を集約し、学習過程を検討した。

3 実践研究

(1) 課題解決的な保健学習の学習過程「授業スタイル」の作成

健康課題に気付き、その課題を解決する力を育成するためには、保健学習で学んだことを 実践できる力を身に付ける必要がある。実践力を育むための学習過程「授業スタイル」を作成し、「授業スタイル」を活用した授業を継続的に行うことで、児童の思考力・判断力・表現力が高まり、健康課題を解決する力につながると考えた。

授業スタイル

学習活動

児童に身に付けさせたい力・指導上の留意点

※ □のうち、学習内容に応じて必要な学習活動を取り入れる。



健康課題の気付き

- □日常の生活を振り返る。
- □提示された資料から疑問をもち、課題を設定する。



めあての確認

【知識を生かして、

自他の健康課題に気付く力】

- ・これまでに習得した知識・技能を確認する。
- ・児童が興味・関心をもてるような、身近な 題材を使用し、本時の学習課題を把握する。

めあてを提示し、意識をもたせる。







自分の考えをもつ

- □課題を見付けたり、解決方法を予想し たりする。
- □習得した知識・技能を活用し、多様な 解決方法を考える。
- □自分の考えを、ワークシートやノート に書く。

♪ 【自分の考えをもち表す力】

・既習事項や生活経験をもと に自分の考えをもたせる。



知識の

習得

開

 \mathcal{O}

中

-で必ず

押

主体的・協働的に取り組める

童

が

展開



学び合いを通して考えを深める

- □話し合ったり、自分の考えを伝え合っ たりする。
- □グループで意見をまとめる。
- □意見を発表し、全体で共有する。

【他者との協働などから 自らの考えを広げ深める力】

・協働的な学習活動を通して、 多様な考え方を共有し、考 えが深まることを実感させる。







自分の生活に生かす方法を考える

□本時の学びをこれからの自分の生活 にどう生かすかを考える。



まとめ

まとめ

□本時の学習を振り返る。

【学びを実生活に生かす力】 ・実生活で、具体的に取り組める内容を考え

させる。

めあてが達成できたか確認させる。

(2) 検証授業

- 小学校 第3学年体育科保健領域学習指導案
- ア 単元名 「毎日の生活と健康」
- イ 単元の目標

健康の大切さを認識するとともに、毎日の生活に関心をもち、健康によい生活の仕方について理解できるようにする。

- (ア) 自分の生活の仕方及び健康な生活に関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとする ことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- (4) 健康に過ごすために自分の生活を振り返り課題を見付け、知識を活用した学習活動により、その改善策を考え、表現することができるようにする。【思考・判断】
- (ウ) 健康の保持増進のためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和がとれた規則正しい生活 を送ること、また身の回りの環境を整えることが必要であることを理解することができる ようにする。【知識・理解】

ウ 単元の評価規準

評価規準	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度 健康な生活について関心を もち、学習活動に意欲的に取り 組もうとしている。	イ 健康・安全についての 思考・判断 健康な生活について、課題の 解決を目指して、知識を活用し た学習活動などにより、実践的 に考え、判断し、それらを表現	ウ 健康・安全についての 知識・理解 健康の状態、1日の生活の仕 方、身の回りの環境について、課 題の解決に役立つ基礎的な事項 を理解している。
. 学習活動に即した評価規準	健康に対して関心をもち、進 んで自分の考えを発表したり、 友達の意見を聞いたりしよう としている。	している。 ①自分の生活を見直し、生活習慣における課題を見付け、、説明におけるを見直し、体の表記を見直し、体の情報にといる。 ②自分で生活を見直し、体解説明している。 ③自分ででは、それらを説明している。 ③自分を整えるために、説明している。 3。	①健康な状態は、主体な関のでいきないでは、主体な関のでいる。 ②毎年のいる。では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で

エ 単元の指導計画

時間	主題名	ねらい	学習活動	評価規準と評価方法
1	けっな こてに ?	健康の状態と生活の仕方や身 の回りの環境が関わっているこ とを理解し、健康の大切さを表 現できる。	けんこうビンゴゲームを通して、 「健康」とはどういうことなのか、 健康には何が関係しているのかを 考え、表現する。	ア 観察 ウー① ワークシート・観察
2	一日の 生活の しかた	健康に過ごすには、どんな 1 日の生活の仕方がよいのかを理 解し、課題や解決方法を見付け て表現できる。	担任の生活表を元に、健康に過ごすためには生活の仕方をどのように改善したらよいかを考える。自分の生活を振り返り、生活上の課題及び改善策を考え、表現する。	イー① ウー② ワークシート・観察
3	体せい けつ大 作戦	健康を保つには、体や衣服などの身に着けるものの清潔を保つことが必要であることについて理解し、自分の生活の課題や解決方法を見付けて表現できる。	実験から、健康に過ごすためには どのように清潔を保つことがよい のかを考える。自分の生活を振り返 り、生活上の課題及び改善策を考 え、表現する。	イー② ウー③ ワークシート・観察
4 本 時	身の回りの環境	健康には、部屋の明るさの調 節や換気などの生活環境を整え ることが必要であることを理解 し、自分の生活の課題や解決方 法を見付けて表現できる。	環境が整っていない教室のフィールドワークを行い、問題点を見付け、環境に良くする方法を考える。 自分の生活を振り返り、生活上の課 題及び改善策を考え、表現する。	イー③ ウー④ ワークシート・観察

- 才 本時 (4/4)
- (ア) 本時のねらい
 - ・自分の生活を見直し、生活環境を整えるために自分でできることを考え、表現するこ とができるようにする。 【思考・判断】
 - ・健康に過ごすためには、部屋の明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが大 切であることを理解できるようにする。 【知識・理解】

(イ) 本時の展開

T1:養護教諭 T2:担任

導 入

健康課題の気付き

学習活動・予想される児童の反応

- 1 第1時の学習内容を振り返り、健康で いるためには、環境が関わっていること を思い出す。
- 2 学校薬剤師の写真を見て、何をしてい るところなのかを考える。



めあての確認

3 本時のめあてが「自分の回りの環境に ついて考えよう」であることを知る。

- ○教師の支援 ◇指導上の留意点 ☆評価
- ◇事前に環境が整っていない教室を準備す る。(カーテンを閉じ、窓・扉を閉めてお く。エアコンの温度を高めに設定してお く。電気を消しておく。ゴミを落として おく。)
- ○第1時の板書をモニタに映し、健康でい るために関係している環境に注目させ る。(T1)
- ○学校薬剤師が照度検査をしている写真を 提示し、何をしているところなのかを予 想させる。(T1)
- ○健康のために、身の回りの環境を調べて いることに気付かせる。(T1)
- ◇環境とは、明るさや空気など、身の回り の状況であることを確認する。
- ◇めあてを提示し、児童に読ませることで、 めあてに対する意識を高める。(T1)

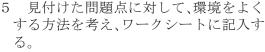
展 開

発問:○年○組の教室の環境を調べてみよう



自分の考えをもつ

- 4 各自が環境調査隊となり、環境が整っ ていない教室でフィールドワークを行 い、問題点を見付けワークシートに記入 する。
 - ・暗い ・暑い ・ゴミが落ちている
 - カーテンが閉まっているくさい
 - ・電気が付いていない ・空気が汚い
- ○調査方法、環境調査隊の掟を説明する。 (T2)
- ◇ワークシートを持って、教室を移動させ る。(T2)
- ◇○年○組で勉強していたら、健康でいら れるかという視点で環境調査をするよう に伝える。(T1)
- ○年○組に移動し、3分間調査させる。 (T1)
- ○教室に戻ってきたときに、今の教室と比 べて気付いた点があれば、ワークシート に書かせる。(T1)
- ○自分で見付けた問題点に対して、環境を よくするための方法を考え、ワークシー トに記入するように説明する。(T2)





学び合いを通して考えを深める

- る方法をグループで話し合う。
- 6 見付けた問題点・考えた環境をよくす | ○話合いの方法についての手順や、進め方 の具体例を出して説明する。(T2)

- ①見付けてきた問題点をグループ内で 発表し合う。
- ②友達の意見で新たに見付けたものや、 グループで話し合い、新たに考えたも のは赤で追記する。
- 7 グループで話し合った調査した教室 の問題点、環境をよくする方法を発表 し、確認し合う。
 - ・電気をつける・カーテンをあける
 - ・エアコンを消す ・ゴミを拾う
 - ・窓をあける・そうじをする



知識の習得

8 明るさの調節ができていない部屋・閉めきった部屋の体への影響を知る。

- ○グループで話し合った、調査した教室の 問題点・環境をよくする方法を発表させ (T2)、板書する。(T1)
- ◇なぜそのように考えたのか理由も発表す るように説明する。(T 2)
- ◇同じ意見、近い意見などは挙手をさせて確認する。(T2)
- ◇自分の班で出なかった意見があった場合 は、ワークシートに赤で追記するよう促 す。(T2)
- ○デジタル教材などを活用して、暗い部屋・明るすぎる部屋の目への影響、閉めきった部屋の細菌・ほこりなどの体への影響の説明をする。(T1)
- ◇児童の考えた環境をよくする方法を価値 付けしながら説明していく。(T1)

まとめ



自分の生活に生かす方法を考える

9 本時の学びを、これからの自分の生活 にどう生かすか考え、ワークシートに書 く。

10 ワークシートに記入したことを発表する。



まとめ

- 11 本時のめあてが達成できたかについ て振り返る。
- 12 4時間の保健学習を振り返り、健康を守るために、学校では様々な活動が行われていることを知る。

- ○ワークシートに、これから環境について 気を付けることを具体的に書くように説 明する。(T1)
- ☆健康に過ごすために、部屋の明るさの調 節や換気などの生活環境を整えることが 大切であることについて言ったり書いた りしている。

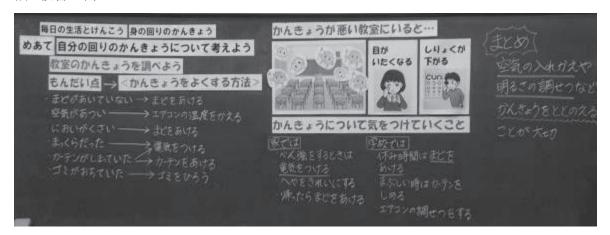
【知識・理解】(観察・ワークシート)

☆自分の生活を見直し、生活環境を整える ために自分にできることを考え、説明し ている。

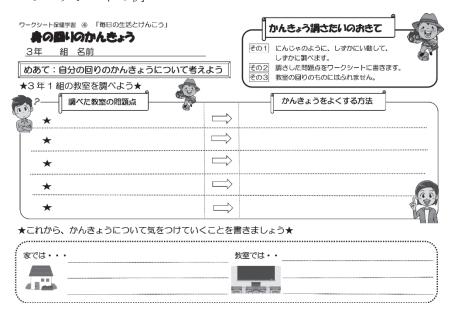
【思考・判断】(観察・ワークシート)

- ◇自分の生活を見直して、生活環境を整えるために自分でできることを具体的に記入している児童を選び、発表させる。 (T1・2)
- ○毎日を気持ちよく健康に過ごすためには、空気の入れ替えや明るさの調節など、 身の回りの環境を整えることが大切であることを確認する。(T1)
- ○学校医など、多くの人が健康を守るための活動に関わっていることを紹介する。 (T1)
- ◇保健学習で学んだことを生かし、健康の 保持増進を心がけて生活していくよう伝 える。(T1)

(ウ) 板書の例



(エ) 資料 ワークシートの例



(オ) 児童の感想(抜粋)

- ・窓を開けたり、掃除をしたりしないと、健康になれないと気付きました。
- ・家で電気をつけて、勉強や宿題をするようにがんばります。家に帰ったら、早速掃除します。
- ・換気・温度・明るさを整えて、きれいな教室にします。自分の家でも同じことをします。
- ・おうちでも、空気の入れかえを生活に取り入れたいと思います。
- ・家で全然換気をしていなかったから、家でも毎日換気をします。

カ 検証授業を終えて

フィールドワークをすることにより、どの児童も環境の問題点に気付き、自分の考えをもつことができていた。そして、その気付きを基に改善策を考えることができた。

自分の生活に生かす方法については、教室や自宅でも環境を整える方法を具体的に考えて表現している児童が多数いた。

- 特別支援学校 第6学年生活単元学習指導案
- ア 単元名 「せいけつ」
- イ 本時(4時間扱いの第3時間目)
- (ア) 本時のねらい
 - ・清潔・不潔を知る。
 - ・正しい行動を考える。
 - ・自分の生活でできることを実践する。
- (イ) 本時の展開

T1:養護教諭 T2:担任

学習活動 ○教師の支援 ◇指導上の留意点 ☆評価 導 1 始まりの挨拶をする。 入 2 前時の授業の振り返りを行う。 ○前時の授業の振り返りを使用した教材を用いて 行う。(T1) 健康課題の気付き めあての確認 3 本日の活動の流れを知る。 ○電子黒板を用いながら、本時の流れを伝える。 今白やること (T1) I せいけつをしろう **②ふけつにしらたどうなる** ○電子機器の設定を行う。(T2) ざなにをせいけつにする **4みんなでとりくもう** 5まとめ・つぎの授業

展開



自分の考えをもつ



知識の習得

4 清潔についての正しい知識を身に付ける。

①洋服

②手

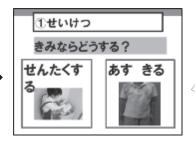
③汗

④髪



5 不潔にしたらどうなるのか を知る。 ○電子黒板を用いて、正しい行動を各自が選択で きるようにする。(T1)

☆自身の考えで行動を選択できたか。(観察)



全員参加の工夫 タッチパネルを タッチして回答 を選択する

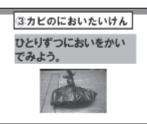
- ○電子黒板を用いて、写真を提示する。(T1)
- ○カビがどんな臭いがするのかを体験させる。

(T1)



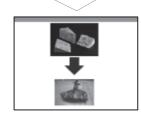
学び合いを通して考えを深める

6 臭いを体験する。



工夫:臭いを体験する経験を取り入れる。臭いを体験するかは児童の希望で行う。





7 友達の意見を聞く。

- ○感想を発表させる。(T1)
- ○児童介助 (T2)

まと

8



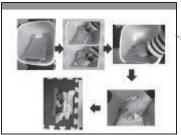
自分の生活に生かす方法を考える

8 清潔に過ごすための行動を知る。





9 次回の授業について知る。



まとめ

- 10 今日の学びが日頃の生活に生かすことを知る。
- 11 終わりの挨拶をする。

○洋服、手、汗、髪の正しい行動をみんなで復唱する。(T1)

☆声に出して、正しい行動を言えたか。(観察)

- ○自宅で実践することを伝える。(T1)
- ○清潔に気を付けてすてきな中学生になっていく ことを知らせる。(T1)
- ○次週の授業についても見通しをもてるよう、具体的に提示する。(T1)

工夫:次の授業に対しても、意欲をもつため に、実際に使用する教材や視覚教材を 用いて見通しをもたせる。

○スライド印刷した写真を見せながら、毎日やる ことであることを再度伝える。(T1)

(ウ) 板書(電子黒板)



ウ 検証授業を終えて

本時は知的特別支援学校小学部6年生の生活単元学習の時間に実施した。授業スタイルに沿って、課題の対処や解決を予測させ、自分で選択する活動を取り入れた。小学部6年生の生活単元学習では、重度重複学級と普通学級の児童が一緒に行うため、全児童が参加できるICT教材を使用した。また誰もが体験できる「かいでみよう」という活動を盛り込むことで、児童の興味・関心を引き出し、清潔の大切さを理解することに効果的であった。

- 小学校 第5学年体育科保健領域学習指導案
- ア 単元名 「心の健康」
- イ 単元の目標
- (ア) 心の発達、心と体の関わり、不安や悩みへの対処の仕方に関心をもち、すすんで課題を 見付けようとし、意欲的に課題解決に取り組もうとすることができるようにする。

【関心・意欲・態度】

- (イ) 自分の生活を振り返り、心の発達、心と体のかかわり、不安や悩みへの対処の仕方を考え、判断し、それらを表現することができるようにする。 【思考・判断】
- (ウ) 心は年齢とともに発達すること及び心と体は相互に影響し合うこと、不安や悩みへの対処には様々な方法があることを理解することができるようにする。【知識・理解】

ウ 単元の評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
評価規準	心の健康について関心を もち、学習活動に意欲的に取 り組もうとしている。	心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表現している。	心は年齢とともに発達すること、心と体は相互に影響し合うこと、不安や悩みへの対処にはいろいろな方法があることなど、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
学習活動に即した	①心の発達に関心をもち、進んで自分の意見を言ったり、友達の意見を真剣に聞いたりしようとしている。 ②不安や悩みの対処の方法について、意欲的に活動に取り組もうとしている。	①心と体の調子が悪いとき にどうすればいる。 ②自分の生活を振り返の対て の方法を考え、説明して の方法を考え、説明し る。 の方法を考え、の自分にしる。 会について、自分にして 方法を見付け、 がる。	①心は、様々な生活経験や学習を通し、年齢に伴っ、言る語し、年齢にいている。書することについている。書いたりしていると体は互いにといると体は互いる。書いたりして、る。。 ③不安や悩みへの対処には、ことを言ったり、書いたり、はことになる。

エ 単元の指導計画

時間	主題名	ねらい	学習活動	評価規準と評価方 法
1	心の発達	心は、様々な生活経験や学習を通し、年齢に伴って発達することについて理解し、心を豊かにする方法を考え、表現できるようにする。	1年生の時と5年生の今を比べて、どのように心は変化しているのかを考え、表現する。	アー① 観察 ウー① ワークシート・観察
2	心と体のつ ながり	心と体は互いに深く影響し合っていることを理解し、心 や体の調子が悪いときは、ど うしたらよいかを考え、表現 できるようにする。	心の変化により、体はどのように変化するか、体の調子により、心はどのように変化するのかを考え、表現する。	イー① ウー② ワークシート・観察
3 本時	不安や悩み があるとき	不安や悩みは、誰もが経験 することであることを理解 し、不安や悩みについての対 処の方法を見付けて表現でき るようにする。	不安や悩みを抱えたときに、 どのように対処すればよいのか をグループで考え、表現する。	イー②③ ウー③ ワークシート・観察
4	心と体をリ ラックスさ せよう	不安や悩みの対処の方法に 関心をもち、様々な対処の方 法を体験することで、自分に 合った対処の方法を見付けて 表現できるようにする。	自分たちの考えや教師の紹介 による不安や悩みの対処の方法 を実際に体験し、自分に合った 対処の方法を見付け、表現する。	アー② 観察 ウー③ ワークシート・観察

- 才 本時 (3/4)
- (ア) 本時のねらい
 - ・不安や悩みについての対処の仕方を考え、表現することができるようにする。 【思考・判断】
 - ・不安や悩みへの対処にはいろいろな方法があり、自分に合った方法で対処できることを理解することができるようにする。【知識・理解】

(イ) 本時の展開

T1:養護教諭 T2:担任

学習活動

○教師の支援 ◇指導上の留意点 ☆評価



入

健康課題の気付き

- 1 前時の学習内容を振り返る。
- 2 本校 5 年生の不安や悩みトップ 5 を知る。



めあての確認

3 誰でも不安や悩みはもっていること、心や体が発達している思春期は 不安や悩みが増えることを知る。

- ○前回の振り返りシートの発表をする。(T1)
- ○事前に行ったアンケートより、5年生の不安 や悩みトップ5の結果を予想させた上で、発 表する。(T1)



- ◇多くの人が不安や悩みを抱えていることを気付かせる。(T1、T2)
- ○本時のめあて「不安やなやみがある時の対処 の方法を考えよう」を提示する。(T1)

発問:不安や悩みがあるときにはどんな対処の方法があるだろう。



自分の考えをもつ

4 不安や悩みで困ったときに、自分 はどのように対処をしているかを考 えワークシートに記入する。 ◇机間指導で自分の考えを書けない児童に対しては「○○で困った時にはどうしているの?」などの補助発問をする。(T1、T2)



学び合いを通して考えを深める

- 5 自分の考えた対処の方法を3人グ ループで発表し、短冊に記入する。
- 6 終わったグループは、更に他の対 処の方法を話し合い、短冊に書く。
- 7 記入した短冊を座標軸に分類し 貼る。

- ○教師の体験談を見本とし、自分はどのように 対処をしているか考えさせる。(T1、T2)
- ◇話合いが進んでいないグループには、他のグループの対処の方法をヒントとして出す。話合いが進んでいるグループには「こういう時にはどういう対処の方法がいいかな?」などと声をかけ、更に意見が出るよう導く。

(T1, T2)

- ○縦軸を「大勢」⇔「一人」、横軸を「体を動か さないもの」⇔「体を動かすもの」とした座 標軸に短冊を分類するよう伝える。(T1)
- ○分類に迷う児童には、助言する。(T1、T2)

8 対処の方法を行ったときの気持ちを発表する。



知識の習得

9 いろいろな対処の方法があり、自 分の悩みや不安に合った方法で対処 できることを知る。



- ◇多様な対処の方法を紹介できるように、意図 的指名も行う。(T1、T2)
- ○対処の方法を実践したときにどう変わったか 考えさせる。(T1)
- ◇命やいじめに関わるもの等、重大な悩みや不 安は、必ずすぐに大人に伝えるよう確認する。 (T2)



自分の生活に生かす方法を考える

10 やってみたい対処の方法を、ワークシートに記入する。

11 選んだ対処の方法を発表する。



まとめ

- 12 ふりかえりカードに記入する。
- 13 記入したことを発表する。

☆自分の生活を振り返り、不安や悩みについて の対処方法を考え、表現している。

【思考・判断】(ワークシート・観察)

- ◇めあてを振り返り、めあてが達成できたかを 意識して書くように説明する。(T1)
- ○ワークシートに書いた内容を発表させる。(T1)
- ☆不安や悩みへの対処には、いろいろな方法があることを言ったり、書いたりしている。

【知識・理解】(ワークシート・観察)

(ウ) 板書の例



(工) 資料

ワークシートの例 5年保健 心の健康 3 不安やなやみがあるとき 1 5年生の不安やなやみランキング 心や体が発達 している思春 期は不安やな 将来 __ やみが増えて 友達 くる 2 不安やなやみがあるときにはどのような対処の方法があるだろう? わたしはこんなことをしているよ。 **>** ① 方法で対処することが大事。 3 不安やなやみがあるとき・・・・ 私は今まで の方法で対処 していました。理由は だからです。みんなの意見をみて、 の対処の方法をやってみたいと思いました。

ふりかえりカード

ふりかえりカード3 不安やなやみをかかえたとき
<u>年組番</u> 1 授業の内容は分かりましたか?
よく分かった 分かった あまり分からなかった 分からなかった
2 授業の聴想や、気づいたこと、考えたことを書きましょう。

(オ) 児童の感想(抜粋)

- ・ぼくはいつも一人で対処しようと思っていました。でも友達や親に相談してみたり、みんなと遊んだりして不安やなやみを対処してもいいのだなと思いました。
- ・今日の授業でぼくは寝るという一つだけ意見を出しました。だけどグループで話し合ったら合計六つ出ました。それでみんなが出した案がたくさんあっていろいろな対処の方法があったのでびっくりしました。
- ・私は不安やなやみがあるときは一人で自分の好きな事をしていました。でもみんなの意 見を聞いて、だれかに話したり、体を動かしたりしてもいいと思いました。

カ 検証授業を終えて

話合いにおいて座標軸及び付箋を活用した思考法を取り入れたことにより、児童の思考を広げるとともに、様々な対処の方法があることを視覚的に理解させることができた。しかし、児童は一人で体を動かさない対処の方法に注目しがちであった。日常の生活を振り返らせ、一人で体を動かす対処の方法、大勢で体を動かさない対処の方法に、児童が気付けるよう声掛けなどの手だてが必要であった。

授業終了後には、保健室で友達関係などの相談をする児童が増えた。相談という対処の 方法を知識として習得し、実践する様子が見られた。

4 調査研究

(1) 調査の目的

主体的・協働的な学習活動を工夫した授業スタイルを活用して授業を行うことにより、児童の思考力・判断力・表現力が高まり、健康課題を解決する力が育成できたか検証する。また、効果的、かつ実施可能な授業スタイルの在り方を再検討する際の資料とする。

(2) 調査の方法及び実施状況

ア 調査期間 平成28年9月~10月

イ 調査対象 東京都公立小学校(本部会研究員所属校)の児童

ウ 調査人数 小学校:第3学年延べ415名、第5学年延べ334名

工 調査内容

学習指導要領における体育科・保健体育科の目標及び主な内容図から作成

領域		取扱い	3年	4年	5年	6年
		「毎日の生活と健康」	0			
	保健	「育ちゆく体とわたし」		0		
保健領域		「けがの防止」			0	
水层模块		「心の健康」			0	
		「病気の予防」				\circ
	·	各学年の授業時数	8 時間	見程度	16 時間	間程度

◎:調査対象授業

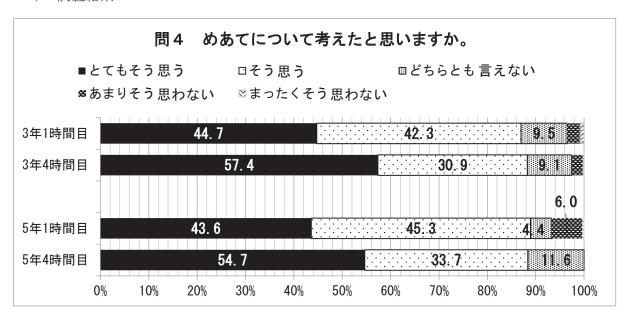
才 調査方法

質問紙法による評定尺度法。思考・表現・意識・理解について、児童自身が5段階尺度 から1項目を選択する。本研究員所属校にて調査対象授業後、同日に実施した。

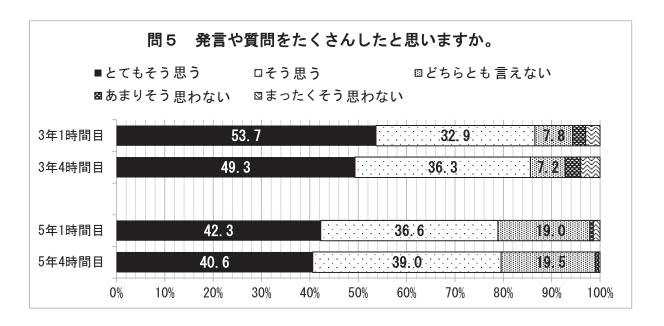
カ 調査にあたっての留意点

調査の実施にあたっては、実施者は同一の説明文を読み上げ、環境調整を行った。また 質問紙は、発達段階に応じた表現や用語を選んで作成した。

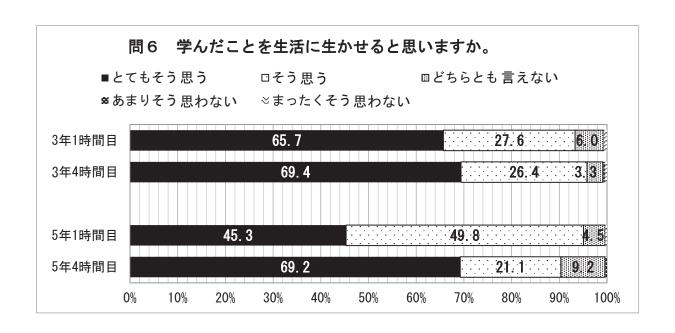
キ調査結果



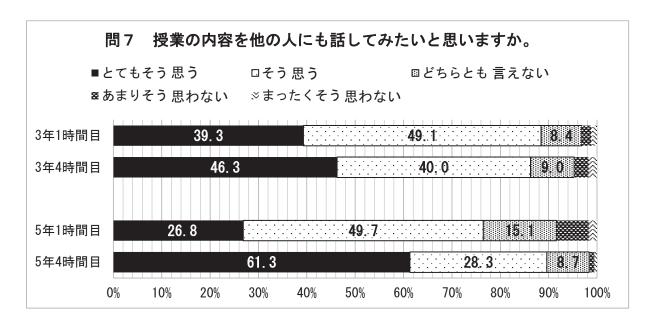
第3学年では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、1時間目の44.7%から4時間目は57.4%と12.7ポイント上昇した。第5学年では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、1時間目の43.6%から4時間目54.7%と11.1ポイント上昇した。第5学年については、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」と答えた児童の割合が6.0%から0.0%になった。



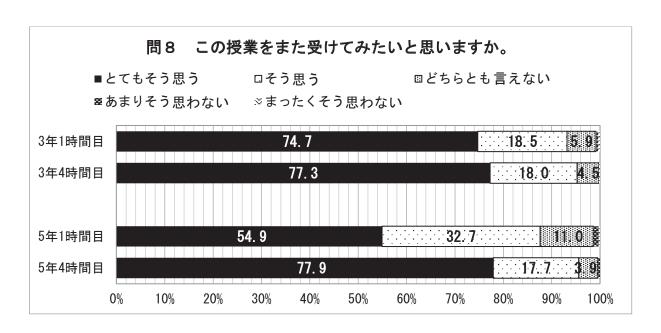
第3学年では、「とてもそう思う」、「そう思う」と答えた児童の割合が、1時間目では86.6%、4時間目では85.6%であった。第5学年では、「とてもそう思う」、「そう思う」と答えた児童の割合が、1時間目では78.9%、4時間目では79.6%であった。第3学年・第5学年ともに、ほぼ変化がなかった。



第3学年では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、1時間目の 65.7%から4時間目は69.4%と3.7ポイント上昇した。第5学年では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、1時間目の45.3%から4時間目69.2%と23.9ポイント上昇した。第3学年・第5学年とも「とてもそう思う」、「そう思う」と答えた児童の割合が90.0%を超えた。



第3学年では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、1時間目の39.3%から4時間目は46.3%と7.0ポイント上昇した。第5学年では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、1時間目の26.8%から4時間目61.3%と34.5ポイント上昇した。第5学年1時間目では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が26.8%と全質問で一番低い割合を示したが、上昇率も一番高かった。



第3学年では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、1時間目の74.7%から4時間目は77.3%と2.6ポイント上昇した。第5学年では、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、1時間目の54.9%から4時間目77.9%と23.0ポイント上昇した。第3学年・第5学年とも「とてもそう思う」、「そう思う」の児童が4時間目では、90.0%以上であった。

<参考資料>質問用紙

授業についてのアンケート									
年組番名前									
☆今日の授業を受けて、あてはまるマー	記入例: Oをつけま しょう	₹58±5							
1 授業は楽しかったと思いますか。	とてもそうおもう	そうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	まったくそうおもわない				
2 授業はわかりやすいと思いますか。	とてもそうおもう	そうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	まったくそうおもわない				
3 いっしょうけんめいに授業を受けたと思いますか。	とてもそうおもう	そうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	まったくそうおもわない				
4 めあてについて考えたと思いますか。	とてもそうおもう	そうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	まったくそうおもわない				
5 発言や質問をたくさんしたと思いますか。	とてもそうおもう	そうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	まったくそうおもわない				
6 学んだことを自分の生活にいかせると思いますか。	とてもそうおもう	そうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	まったくそうおもわない				
7 授業の内容を他の人にもはなしてみたいと思いますか。	とてもそうおもう	そうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	まったくそうおもわない				
8 この授業をまた受けてみたいと思いますか。	とてもそうおもう	そうおもう	どちらともいえない	あまりそうおもわない	まったくそうおもわない				

<参考資料>調査集計結果一覧

				3年 5年									
		調査項目		とても そう思 う	そう思 う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	まった くそう 思わな い	とても そう思 う	そう思 う		あまり そう思 わない	まった くそう 思わな い
			1時間目	69.8%	27.1%	2.5%	0.4%	0.2%	47.5%	44.7%	7.5%	0.0%	0.3%
意	問	授業は楽し かったと思い	2時間目	67.2%	30.0%	2.0%	0.9%	0.0%	40.5%	56.8%	2.0%	0.0%	0.7%
欲	1	ますか。	3時間目	78.6%	17.6%	2.5%	0.8%	0.4%	84.6%	13.9%	1.5%	0.0%	0.0%
			4時間目	81.2%	16.5%	1.4%	0.9%	0.0%	87.1%	12.9%	0.0%	0.0%	0.0%
			1時間目	72.2%	25.9%	1.3%	0.4%	0.2%	57.5%	36.6%	5.3%	0.6%	0.0%
理	問	授業は分かり やすいと思い	2時間目	63.5%	34.7%	1.3%	0.4%	0.0%	74.9%	24.8%	0.0%	0.0%	0.3%
解	2	ますか。	3時間目	77.9%	16.0%	3.8%	1.6%	0.6%	86.5%	12.0%	1.5%	0.0%	0.0%
			4時間目	72.2%	25.5%	1.9%	0.4%	0.0%	84.1%	14.4%	1.4%	0.0%	0.0%
		いっしょうけん	1時間目	55.4%	37.1%	7.0%	0.0%	0.4%	46.2%	48.2%	5.0%	0.6%	0.0%
意	問	めいに授業を	2時間目	51.8%	37.6%	9.9%	0.5%	0.2%	65.3%	32.0%	2.4%	0.0%	0.3%
欲	3	受けたと思い	3時間目	60.2%	33.3%	3.3%	2.1%	1.1%	69.6%	28.3%	1.6%	0.5%	0.0%
		ますか。	4時間目	61.8%	30.6%	6.7%	0.4%	0.4%	65.2%	22.4%	12.4%	0.0%	0.0%
			1時間目	44.7%	42.3%	9.5%	2.6%	0.8%	43.6%	45.3%	4.4%	6.0%	0.3%
思	問		2時間目	48.6%	29.9%	19.5%	1.5%	0.5%	46.6%	45.2%	7.6%	0.6%	0.0%
考	4		3時間目	57.3%	27.5%	12.4%	1.8%	0.9%	68.6%	29.6%	1.6%	0.0%	0.3%
			4時間目	57.4%	30.9%	9.1%	2.3%	0.2%	54.7%	33.7%	11.6%	0.0%	0.0%
			1時間目	53.7%	32.9%	7.8%	2.6%	2.8%	42.3%	36.6%	19.0%	0.7%	1.4%
表		発言や質問を	2時間目	50.6%	27.7%	9.5%	7.7%	3.1%	45.7%	36.6%	14.2%	1.8%	1.5%
現	5	たくさんしたと 思いますか。	3時間目	50.0%	32.8%	9.2%	3.8%	3.6%	50.7%	31.3%	13.9%	3.3%	0.6%
			4時間目	49.3%	36.3%	7.2%	3.0%	3.7%	40.6%	39.0%	19.5%	0.6%	0.3%
		当した	1時間目	65.7%	27.6%	6.0%	0.0%	0.7%	45.3%	49.8%	4.5%	0.0%	0.4%
判		学んだことを 自分の生活に	2時間目	60.1%	29.0%	10.2%	0.4%	0.2%	64.9%	32.4%	2.4%	0.0%	0.3%
断	6	いかせると思	3時間目	66.2%	26.5%	4.6%	1.7%	0.9%	81.0%	17.5%	1.5%	0.0%	0.0%
		いますか。	4時間目	69.4%	26.4%	3.3%	0.4%	0.4%	69.2%	21.1%	9.2%	0.4%	0.0%
		拉業の中容さ	1時間目	39.3%	49.1%	8.4%	1.9%	1.2%	26.8%	49.7%	15.1%	6.2%	1.5%
表		授業の内容を 他の人にも話	2時間目	47.2%	34.6%	11.0%	3.9%	2.7%	46.6%	33.5%	17.7%	1.2%	0.9%
現	7	してみたいと	3時間目	46.6%	35.3%	13.6%	1.4%	2.9%	65.2%	23.9%	9.8%	1.1%	0.0%
		思いますか。	4時間目	46.3%	40.0%	9.0%	2.9%	1.7%	61.3%	28.3%	8.7%	1.1%	0.5%
		- 0 拉来++	1時間目	74.7%	18.5%	5.9%	0.4%	0.4%	54.9%	32.7%	11.0%	1.1%	0.3%
意	問	この授業をま た受けてみた	2時間目	77.0%	16.1%	6.0%	0.4%	0.4%	64.2%	25.7%	9.2%	0.6%	0.3%
		いと思います	3時間目	75.8%	15.6%	6.5%	0.8%	1.3%	78.5%	15.4%	5.0%	1.1%	0.0%
		か。	4時間目	77.3%	18.0%	4.5%	0.0%	0.2%	77.9%	17.7%	3.9%	0.5%	0.0%

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 授業スタイルの活用

学習指導案を作成する上で、学びの過程の7つのポイントである「健康課題の気付き」「めあての確認」「知識の習得」「自分の考えをもつ」「学び合いを通して考えを深める」「自分の生活に生かす方法を考える」「まとめ」を確実に学習活動に位置付け、指導を展開した結果、以下の成果が見られた。

ア 調査研究から

めあてについて授業の導入で確認し、まとめで達成できたかを振り返った。設問「めあてについて考えたと思いますか」に肯定的な回答をした児童は第3学年で85%前後、第5学年で90%前後であった。このことから、児童がめあてを意識しながら学習することができ、思考力が高まったのではないかと考えられる。

知識を習得して自分の考えをもち、学びあいを通して考えを深める学習活動をした上で、「自分の生活に生かす方法を考えさせる」学習活動を行った。設問「学んだことを自分の生活に生かせると思いますか」に肯定的な回答をした児童は第3学年・第5学年共に90%を上回っていた。自分の生活を見直し課題を見付け生活にどう生かすかを考える、判断力の育成につながった。

児童の発言や質問については、設問「発言や質問をたくさんしたと思いますか」、「授業の内容を他の人にも話してみたいと思いますか」に肯定的な回答をした児童が、第3学年・第5学年共に80%を上回っていた。このことから、自分の考えを他の人に伝えることができ、表現力が高まったと考えられる。

イ ワークシートから

ワークシートから、児童が自分の考えをもち、学び合いの場面で友達の意見を聞いて、 考えを深めることができていたことが読み取れた。また、児童が学習したことを生活のど の場面でどのように生かすかを判断し、具体的に表現している様子も読み取れた。

以上のことから、授業スタイルを活用した指導を展開することで、児童の思考力・判断力・表現力、健康解題を解決する力を高めることができたと考えられる。

(2) 主体的・協働的な学習活動の工夫

第3学年1時間目では、健康ビンゴゲームを活用することで、他の児童との意見交換を行った。一人ではワークシートを埋められなかった児童も、友達の意見を取り入れ、記入することができ、自分の考えを深めることができた。

第3学年4時間目では、環境が整っていない教室でフィールドワークを行い、話合い活動を行った。体験的・実践的な学習活動を工夫することにより、どの児童も主体的に考えることができ、自分の考えをもって話合い活動を行うことで、考えを広げることができた。

第5学年3時間目では、不安や悩みがある時の対処の方法を、座標軸を活用してまとめた。 個の意見を全体で共有する場を設けることで、自分の考えを広げることができた。ワークシートからも「自分一人では考えられなかった」、「一人で考えたら一つしか出てこなかったけどみんなの意見を見てみたらいろいろな方法があった」、「いつもは一つの方法で対処をして いたけど、友達の意見を見てこの方法でやってみたい」など多様な考えを共有し、対話的な 学びである話合い活動によって、考えを広げることができた。

第3学年1、4時間目、第5学年3、4時間目では、設問「めあてについて考えたと思いますか」、設問「学んだことを自分の生活に生かせると思いますか」、設問「授業の内容を他の人にも話してみたいと思いますか」で、肯定的な回答が多かった。児童にとって身近な内容を題材とし、自分の意見や考えを明確にもたせることで、学び合いが充実し、児童の思考力・判断力・表現力が高まり、健康課題を解決する力に結び付いたのではないかと考えられる。

2 今後の課題

(1) 授業スタイルの更なる活用と指導の改善

設問「発言や質問をたくさんしたと思いますか」では、肯定的な回答は80%以上であったが、上昇が見られなかった。発言や質問という言葉の捉え方が児童によって異なっていたため、肯定的な回答が上昇しなかったと考えられる。また、「授業スタイル」の展開では学び合いを通して考えを深めることをねらったが、活動の時間が少なかったことで、児童が発言したり質問したりする機会が不十分だったと考えられる。よって、学び合いを通して考えを深める時間を十分確保できるよう検討する必要がある。

設問「めあてについて考えたと思いますか」に肯定的な回答をした児童は、第5学年では90%前後に対し、第3学年では80%前後であった。授業の途中でめあてに注目させるような声掛けを行い、授業のまとめにおいて、めあての達成状況を振り返ることをしっかりと行うことが必要である。

本研究では、第3学年と第5学年の一部の単元でのみ、授業スタイルを活用した授業を実践した。全ての単元において、授業スタイルを活用した指導を実践していきたい。

(2) 主体的・協働的な学習活動の更なる工夫

主体的・協働的な学習活動の指導方法を吟味したが、地域や学校、学級や児童の実態に応じて、今後も更なる工夫が必要である。児童が自分の考えをもつことが難しいと、話合い活動が活発に行われなかった。児童が自ら課題を見付け自分の考えをもつために、板書の工夫、発問の工夫、ワークシートの工夫などが課題である。

また本研究では、ゲームを活用した意見交換、座標軸及び付箋を活用した思考法、ブレインストーミング、フィールドワークを行ったが、実習、実験など、まだ実践できていない指導方法もある。主体的・協働的な学習活動が活発になるよう、今後も学習内容に適した様々な指導方法を更に工夫し、実践していく必要がある。

平成28年度 教育研究員名簿

小·特 合同 · 学校保健

学 校 名	職名	氏 名
中央区立明石小学校	主任養護教諭	芹澤 美紀
目 黒 区 立 大 岡 山 小 学 校	主任養護教諭	平野 真理
八王子市立東浅川小学校	主任養護教諭	金子 絢子
三鷹市立大沢台小学校	主任養護教諭	○ 山上 すみれ
国分寺市立第八小学校	養護教諭	高木 亜紀
東京都立青山特別支援学校	主任養護教諭	笹渕 真子

◎ 世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター 研修部 教育経営課 指導主事 市川 愛美

平成28年度

教育研究員研究報告書 小·特 合同·学校保健

東京都教育委員会印刷物登録

-平成28年度第142号

平成29年3月

編集・発行東京都教育庁指導部指導企画課

所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話番号 (03) 5320-6849 印刷会社 株式会社オゾニックス

リサイクル適性 (A) この印刷物は、印刷用の紙へ リサイクルできます。